

4-7

演題	おとなりさんもサポーター
副題	～入所者と一緒に取り組む認知症ケア～

認知症
入所者参加

法人名	社会福祉法人 中心会
施設名	えびな南高齢者施設

発表者名 (職種)	大塚 貴子 介護職員
共同発表者	阿部 順子
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	海老名市杉久保南 3-31-6
TEL	046-238-7681
FAX	046-238-7682
メールアドレス	ebinaminami@chusinkai.jp
URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、デイサービス等を複合。地域で専門的なサービスを通じ自分の家族や隣人の存在を素直に喜ぶことが出来る社会作りを目指し「あなたがいてくれて良かったと思える街づくり」を合言葉に活動している。
---------------------------	---

研究の目的、PR ポイント

養護老人ホームは、ほとんどの入所者が自立して生活している。入所者は、身体に不自由なく、掃除、洗濯等も出来、好きな時に外出されている。しかし入所後、認知機能が低下する方もいる。今まで何も問題がなかったのに、物忘れや徘徊が現れてくる。そうすると、入所者同士が行動の異変を指摘するようになり、認知症の方は増々生活しづらくなってしまう。認知症になっても、入所者同士互いに労り合う世界を作る為には、入所者に「認知症」のことを、正しく理解して頂くことが必要だと考えた。

取り組んだ課題

入所者に認知症のことを正しく理解してもらうこと

- ・認知症になった人を「別の世界に住んでいる人」という目で見てしまうので、別世界の人に対して優しく接することが出来るようになること。
- ・職員が認知症の利用者に接する時、入所者を巻き込んでケアが出来るようになること。

具体的な取り組み

- ① 入所者が認知症について、どれ位知識があるのか認知症に対してどんなイメージを持っているのか【認知症についてのアンケート】を作成し調査した。
- ② 【認知症勉強会】を開催した。認知症の種類や症状について、関わり方等基本的な事についてテキストを作成した。
- ③ 勉強会の効果を確認する為に【勉強会后アンケート】を作成した。
- ④ アンケートで入所者の興味を確認した職員は【認知症サポーター養成講座】を開催することを決めた。
- ⑤ 【認知症サポーター養成講座】を開催した。
- ⑥ 認知症サポーターが認知症の方に対して、どのような支援が出来るか、具体的な活動内容を認知症サポーターと職員で話し合っ決めて。

活動の成果と評価

- ・入所者が認知症勉強会・アンケート・認知症サポーター養成講座を経験したことで、少しずつだが、認知症に興味をもってきている。
- ・「自分にも支援が出来る」と自信に繋がった。
- ・入所者同士の仲間意識が芽生えた。

今後の課題

- ・認知症サポーターが、主体的に認知症の方に対して支援する事が出来、それが生きがいに繋がること。
- ・定期的に認知症サポーター活動会合を開き、活動の報告や、困っていること等を、話し合う場を設けていき、継続的な活動に繋げていくこと。
- ・認知症サポーター活動内容について職員でも考える会合を開き、認知症サポーターが支援活動しやすい環境作りを維持していくこと。